



Title	月刊DRF 第17号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合
Issue Date	2011-06-01
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/73502
Type	periodical
Note	事務局: 北海道大学附属図書館; http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
File Information	DRFmonthly_17.pdf



[Instructions for use](#)



月刊 DRF

Digital Repository Federation Monthly

第17号

No. 17
June, 2011

【特集1】平成23年度活動計画

【特集2】DRF参加機関紹介

～新たにDRFに参加された方たちをご紹介します！～

・あなたのお仕事何ですか？



●●研修、ワークショップの開催●●

今までの研修体系を一新し、機関リポジトリの基礎を中心とした新任担当者研修を2回、機関リポジトリの運用や課題について考える中堅担当者研修を1回、開催します。その他に、今年で8回目となる全国ワークショップ、現状の課題や今後の活動などを話し合うサミットも開催します。

また、DRFでは、各機関や地域などでの研修への講師派遣も随時受け付けていますので、お気軽にご依頼ください。

＜開催日程＞

9月8日(木)～9日(金)	機関リポジトリ新任担当者研修(会場:広島大学)
10月6日(木)～7日(金)	機関リポジトリ新任担当者研修(会場:国立情報学研究所)
時期未定	機関リポジトリ中堅担当者研修(会場:未定)
11月10日(木)	第8回DRF全国ワークショップ及び総会(会場:パシフィコ横浜)
時期未定	DRF運用サミット(会場:北海道大学)

●●月刊DRF●●

今月号で通号17号となった月刊DRF。今年度も、DRF主催の研修や関連イベントの情報、海外のオープンアクセス状況、機関リポジトリの先進的な取り組みなど多彩な内容をお伝えし、機関リポジトリ担当者はもちろんのこと、図書館関係者の誰もが興味を持ってくれる誌面を作成していきたいと思っています。

企画

企画WG 主査
広島大学
上田 大輔

国際連携

国際連携WG 主査
小樽医科大学
杉田 茂樹

欧文著作は欧文読者を求めています。

現在、学術情報の効果的なオンライン流通を目指し、メタデータ基準「DRIVER ガイドライン」の国際的汎用性向上や、著者識別子「ORCID」開発への動きなどがすすんでいます。国際連携ワーキンググループでは、COARをはじめとした国際的なオープンアクセス推進組織への協力を通じ、こうした技術標準の策定に参画し、我が国の機関リポジトリの国際的相互運用性の確保、向上に寄与します。

また、各々の立場からオープンアクセス活動に参加する機会として「国際オープンアクセス週間」が今年もまた10月24～30日に予定されています。オレンジを身につけ、研究者への広報作戦、小さなトークイベント、各大学リポジトリの周年記念事業など、大小問わずたくさんの企画をあなたの機関でも実施して盛り上げましょう。

ワーキンググループでは、海外の取り組みの紹介などを通じ、みなさまの企画立案をサポートするとともに、国際オープンアクセス週間に限らず、関連会議への出展、海外メディア等への情報提供を通じ、我が国の機関リポジトリ、オープンアクセス活動の世界への発信につとめます。



技術サポート

技術サポートWG 主査
山口大学
深川 昌彦

技術サポートワーキング(以下、「tech」という)は、「国内機関リポジトリコミュニティに技術面からサポートする」もので、目的を成すために必要な技術的な仕組や手法などの多くの情報提供ができると考えています。

今年度予定される研修やワークショップにおいて、技術的な内容には積極的に協力していきます。また、企画ワーキンググループおよび国際ワーキンググループと協力しながら、新たな技術的課題に取り組んでいこうと思います。さらに、担当者の技術的な疑問を積極的に収集していく仕組みをつくりたいと考えています。

techを「めいっばい活用」してもらい、技術的課題への精神的な障壁をなくしていきましょう。ひとりの疑問解決が、同様の疑問をもつ多くの方の助けになり、また私たちの糧にもなりますので、「知りたいことを教えてください」そして、「知っていることを教えてください」。
ご協力、よろしくお願いたします。

関東



茨城大学
Repository of Open access
Scholarly E-collections
Ibaraki University
<http://ir.lib.ibaraki.ac.jp/>

当館では CSI 事業に採択され、コンテンツ増加に努めています。また博士論文の収集や研究者情報とのリンクについても学内担当部署と検討を始めたところ。DRF を通じて他館の情報を得ることができ、いつも参考にさせていただいております。



筑波技術大学 機関リポジトリ (NTUTリポジトリ)
<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/repo/>

障害者のための大学という観点から、視覚障害者向けの読み上げソフトへの対応を重視しているのがうちのリポジトリ特色です。規模の小さい大学で専門の担当者がいるわけではないので、DRF の情報は本当に頼りにしています。

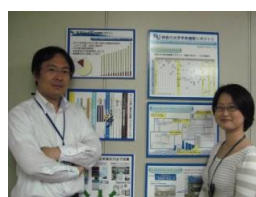


国立大学法人 東京農工大学
Tokyo University of Agriculture and Technology

今年度から加盟いたしました。百里の道も一歩から。やっと正式にスタートラインに立ったところです。コンテンツの収集や広報等、問題は山積みですが、諸先輩リポジトリと DRF からお知恵を頂戴し、存在意義あるリポジトリを構築できたらと思います。よろしくお願いします。

KU 神奈川大学 学術機関リポジトリ
<http://klibredb.lib.kanagawa-u.ac.jp/>

一歩一歩これからも、DRF と共に、神奈川大学。



新潟国際情報大学 リポジトリ (仮称)
http://lib.nuis.ac.jp/infolib/meta_pub/G000002repoitory

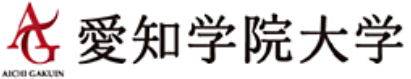
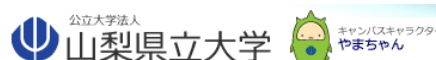
DRF の情報で、リポジトリの基礎から他機関の事例までを学びました。これからも、よろしくお願いします。

アピール! 図書館では、個々のシステムで「教育・研究成果物の情報発信」、「学内刊行物の保存」、「大学関連情報の共有化」を推進してきましたが、昨年度インフォコム株式会社の InfoLib-DBR を導入し、全機能の一元化構想を推進中です。



富山大学 (英文名称の頭文字トリポ) University of Toyama Repository
<http://utomir.lib.u-toyama.ac.jp/>

富山大学学術情報リポジトリ ToRepo (トリポ) は「富山大学からの情報発信」を目指して DRF から得られる情報を頼りに運用しています。紀要論文については大体登録できるようになったので、つぎは他大学のように学術雑誌論文や研究成果等のコンテンツも継続して増加させていきたいと思っています。よろしくお願いします。



昨年より DRF に参加させていただきました。目下、一般公開に向けリポジトリの構築を進めておりますが、まだまだ手探りの状態です。情報、アドバイス等いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。



全く素人でよくわかりませんが、よろしくお願いします。

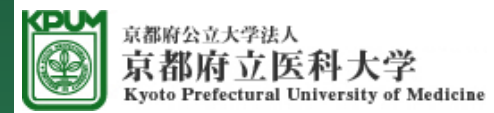


近畿



<http://libir-bw.bss.ac.jp/jspui/>

今年 3 月に「びわこ成蹊スポーツ大学リポジトリ」、通称「淡海(おうみ)」を正式公開いたしました。自力構築を行うにあたって、DRF 技術ワーキンググループの皆様には大変お世話になりました。まだ、コンテンツ数も少なくわからないことも多いですが、「淡海(おうみ)」の発展にむけて、日々業務に取り組んでいます。今後ともよろしくお願いいたします。



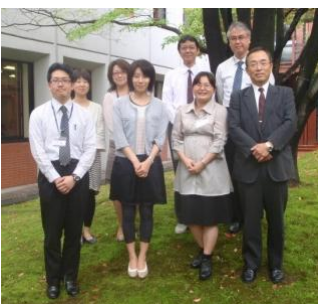
昨年度に参加した、京都府立医科大学附属図書館です。未構築ではありますが、連続開催された近畿<領域3>の研修会 (Nara-Med 含めて6回) には鋭意参加して、さまざまな情報収集に努めています。また、研修会で得られたコミュニティ形成をいろいろな業務にも活かしていきたいと思っています。



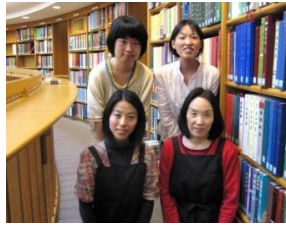
Ryukoku Scholarly Harvest & Important Paper
<http://repo.lib.ryukoku.ac.jp/jspui/>

ML 等でもいつもお世話になっております。皆様からの情報や質問への回答に感謝しております。

アピール! 2010年6月に龍谷大学学術機関リポジトリ (R-SHIP) を公開しました。博士学位論文と紀要論文のみのコンテンツですが、必死のバッチの自炊生活にて、コンテンツ数660件です。今後、広報・コンテンツ収集等がんばります!



まだまだ勉強中ですので、皆様、ご指導よろしくお願いいたします。



立ち上げて1年が過ぎました。職員自ら運用ノウハウの蓄積のためスキャンやメタデータ作成をしています。おかげさまで登録数千件を突破。検索画面には独自の日本語ヘルプを設けるなど小さな工夫で独自性を模索中です。写真は、昨年12月からの強力助っ人、博士論文や製本雑誌のスキャンに大活躍のATIZ社のV字型スキャナー。DRFの皆様、またどこかでお会いしましょう。



九州



学内の紀要を統合して、「九州共立大学研究紀要」を発行し、図書館が担当することになりました。軌道にのればその延長線上に機関リポジトリを予定しています。その際は、学園内の九州女子大学、九州女子短期大学との共同リポジトリになると思っています。



あなたの
お仕事
何ですか？



農林水産技術会議事務局筑波事務所
研究情報課文献情報係
(農林水産研究情報総合センター)

土井 亮 さん

「農林水産試験研究に関する知の泉」を創造するべく、研究に必要な文献、数値、衛星画像など様々なデータベースを一同に集め、インターネットを通じて情報提供するシステム、AGROPEDIA を運用しています。AGROPEDIA は愛称で、農(Agriculture)に関する知の泉(Encyclopedia)を意味する合成語です。また、情報流通基盤としての農林水産省研究ネットワーク(MAFFIN: Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries Research Network)の運用及び科学技術計算のためのアプリケーション利用やデータベース開発、高度なプログラミング環境の提供を行っています。

<http://www.affrc.go.jp/ja/agropedia>

AGROPEDIA

Database Quick Search

- 農学文献検索
- 図書館蔵書検索
- 海外図書館蔵書検索

農学関係の国内外の文献検索を行います。

検索 [全フィールド] for [] 検索

お知らせ

2011-03-24
地震の影響により縮退運転を行っていましたが、本日から通常運転を開始しました。

データベース

図書資料総合目録 (図書資料の所在を探す)
農林水産関係試験研究機関総合目録(Web-OPAC) » 農林水産関係試験研究機関等の書誌・所蔵検索

文献情報(文献を探す)
JASI(農学文献記事索引) » 国内発行の農林水産分野の文献情報
AGRIS » 世界の農林水産分野の文献情報

全文情報 (研究報告や学術論文の全文を読む)
AGROLib(農林水産文献ライブラリ) » 農林水産分野の研究報告や学協会誌論文・農業技術に関する資料

利用案内

- 利用マニュアル
- 利用事例
- 初めて利用される方へ
- データベースの詳細説明

Q 仕事をして良かったと思うことは？

以前は共済組合など厚生関係の事務を担当していましたが、このセンターでは様々なデータベースやシステムの運用や仕様策定、構築など、一般的な事務職では経験できないような業務や、情報分野で日々生まれる新たなサービスなどを収集・学習し業務に生かせることでしょか。

Q 苦労していることは？

「農林水産研究」と1つにまとめて言うと簡単ですが、その中身は多岐にわたり、植物、動物、環境、経済など様々な分野から成り立ち、これらの分野の研究に携わる利用者の皆様のニーズを満たす情報を提供し続けていくことの難しさを感じています。

Q 今後の展望は？

現在、当センターでは様々なデータベースを提供していますが、その中で私が担当している「JASI(農学文献記事索引)」と「AGROLib(農林水産文献ライブラリ)」という2つのデータベースのリニューアルを予定しており、検索機能を向上させるほか外部へのメタデータの提供を開始します。現在、個別のインターフェースで提供しているデータベースや外部から収集したメタデータを1つのインターフェースで統合的に検索できるシステムを構築しており、年内には完成の予定です。

リポジトリ・OAの活動についてひとこと

今後の展望でも書いたとおり、外部へのメタデータ提供を開始しますが、同時に機関リポジトリなどから農業関連のメタデータの収集も行う予定です。収集したメタデータには、農業関連のシソーラス用語を付与するなど付加価値を付け、外部へ提供することを計画しています。このようなメタデータを相互に利用できる流れを創ることで、農林水産研究のデータ中継と発信基地としての役割を担えればと考えています。

次号
予告

【特集1】CSI 交流会参加レポート

6/13-14に開催されるCSI交流会の様態をレポートします

【特集2】営業活動のススメ

今をときめく元気な営業活動事例を紹介します
ほか

編集後記: お忙しい中、多くの方から記事をご提供いただき、無事刊行にこぎつけました。ご協力下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

(AbMon)